

第2回「こんにちは！市長です」開催概要

開催日：令和6年6月25日（火曜日）10時30分から12時00分

開催場所：三田市役所302B会議室

参加団体：母子幼小育友会 いきいき学級（保護者等5名）

主な意見と内容について

1. 小規模特認校（※）の通学について
2. 小規模特認校の良さについて

※小規模特認校制度とは：自然環境に恵まれ、特色ある教育を推進する小規模校に、市内全域から通学を認める制度。三田市では、母子小学校が小規模特認校に該当する。

1. 小規模特認校の通学について

- ・小規模特認校の見学（学校長と面談）は毎年数名いる。また、オープンスクールに来られる保護者もあり、小規模特認校に興味を持っている保護者は一定数いる。
- ・小規模特認校に通学させたいと思っても、通学手段の無さがネックとなっている。母子小学校への通学は保護者の責任と負担において通学させることになっており、小学校の開始時刻に間に合うバスも無いため、保護者が送迎しないといけない。1年生から入学した場合、それを6年間続けなければならないため、それが課題となり入学を断念している保護者もいる。
- ・三田駅から母子小学校までは片道で約20kmある。1日2往復する必要があるので送迎で80km走ることになる。それを毎日続けなければならないので通学の負担が大きい。
- ・通学手段が確保できれば、学校への行き渋りがある子について、学校に通うという選択肢が増える。学校へ行きづらくなっていた子どもが「学校が楽しい」と言って毎日学校に行ってくれることは本当に嬉しいことで、小規模特認校に通うという選択肢を増やすことは子どもにとっても親にとっても大事だと思っている。
- ・通学環境の改善のために、スクールバスの運行やジャンボタクシー程度の大きさの車で通学させる手段を検討してもらえないか。ただ、お金もかかるので、一家庭あたり一万円程度の費用を負担しつつ、残りの部分に補助を出してもらおうとかできないか。
- ・神姫バスの運行時間を小学校の登下校に合わせた運行スケジュールにってもらうことを検討してもらえないか。※上野台中学校を通るバスは運行スケジュールを中学生の登下校時刻に合わせている便がある。

2. 小規模特認校の良さについて

- ・母子小学校に通学して子どもが変わった。表情もイキイキして良くなったし学校を楽しみにしてくれる。「不登校になってはじめて、単に学校に行けないという問題ではない」ということに気づいた。子が笑顔だと親も笑顔になる。学校への行き渋りで悩んでいる保護者にも諦めてほしくない。
- ・小規模なので一人一人の個性に合わせて先生がきめ細やかに指導してくれる。本人が安心できる環境がある。あすなる教室やフリースクールも見学したが、母子小学校では、学校の教育をしてくれる。
- ・全校生徒数は少ないが小規模だからこそ、『母子小学校自体が1つの家族』みたいで、低学年から高学年まで、学年に関係なく自然とコミュニケーションを取っているし、上の子が下の子の面倒

を見るということが自然に身についていく環境がある。

- ・母子小学校は地域の人とのつながりも深く、地元の子と同じように可愛がってもらえる。
- ・学校に行きづらくなっていた子どもが、母子小学校に通って学校が楽しい、病気以外では休まないようになった。母子小学校で本当に良かった。
- ・子どものできない事に目を向けることが多かったが、母子小学校で過ごす中で親も子どもの良い部分に目を向けることができるようになった。子どもも自信が付いてきたように見える。
- ・上の子は大規模校よりも少人数の学校が合っているのでは、と悩み、学校へ6年間送迎できるか、不安だったが、「母子小学校へ通いたい」という子どもの意思を尊重した。1回往復で1時間かかり、通わせるのは大変だが、それを上回る喜びがある。下の子は、その子の意思を尊重して、校区内の小学校に通わせている。

主な意見を受けて（市長から）

- ・スクールバスの運行が一番良いと思っはいるが、財政上の課題等がある。今できることとして、公共交通は担い手不足や減便が進んでおり全国的に厳しい状況ではあるが、バスの運行スケジュールの見直しなどについて事業者から働きかけていきたい。
- ・母子小学校は地元の方に多くの協力をいただいている部分がある。在校している地元の子どもの少なくなっている中、地元の方との話し合いや調整が必要になってきていると認識している。

いただいたご意見・ご提案は今後の市政運営の参考にさせていただきます。